

## 会議概要

会 議：平成24年度第1回我孫子市景観審議会

日 時：平成25年2月15日 午後1時30分～午後3時30分

場 所：議会棟 第1委員会室

出席者：大野委員、篠崎委員、日比野委員、齋藤委員、岡委員、丹治委員、  
阪本委員、川崎委員、澤田委員、玉田委員、赤澤委員  
(欠席) 高田委員

吉澤氏(我孫子の景観を育てる会)、岸本地域整備課長

五十嵐都市部長、丸山景観推進室長、小澤主事、下村囑託職員

議 題：我孫子駅南口国道356号への街路樹等の整備について

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：1名

1. 開会

2. 部長挨拶

3. 景観条例の改正について

平成23年7月に我孫子市審議会等の見直し方針を定めたことに基づき、法で定められている審議会等以外は、市議会議員は基本的に就任しないこととなり、選出委員から市議会議員がなくなった。また、審議会の設置数、委員定数等を全体的に見直すこととなり、前回、前々回の審議会での意見をもとに都市部内で検討した結果、我孫子市景観審議会の委員定数を15人以内から9人以内に変更したことについて説明した。

4. 我孫子駅南側国道356号への街路樹等の整備について

市では、我孫子駅周辺の良い景観形成と緑化推進の観点から、千葉県に対して国道356号への景観に配慮した街路樹等の整備を要望したいと考えている。現況調査の結果、歩道幅員の確保や、切り下げの配置の多さなどの問題から、植栽の配置や樹種について限定される状況であることが分かったが、実現可能な提案をしていきたい旨を説明し、意見を求めた。

<委員から出された主な意見>

(大野委員)

- ・都市計画道路3・4・14号線など、近くの幹線道路との関係性や、コミュニティ、人の関わりなど、いろいろ掘り下げて考えたうえで景観を議論する

べき。

- ・歩道幅員が狭い部分では、沿道の地主の人の協力を得て、一部活用させてもらうことで歩行者空間を広げたり、魅力化を図ったりする計画は可能だと思う。
- ・いきなり全体で計画を実行するのではなく、ポイントでモデルをつくることで、他の沿道住民の方に提案ができる。段階的に関わりをもってもらうことで沿道の緑化修景が進んでいくこともあると思う。
- ・市民農園の利用者などにお花を栽培してもらい、管理を部分的にでも行ってもらうことができれば市の負担を減らすことができ、市民の方にとっても、自分の栽培したものが街並みをつくっていくので誇りを持つてと思う。

(篠崎委員)

- ・生活者の立場を意識してほしい。八坂神社の西側は、子供を乗せた自転車が多い。自転車は車道を走るスペースが十分になく、危険だから仕方なく狭い歩道を走らざるを得ないのが現状。そこを車いすの人、ベビーカーを押す人も通る。さらに街路樹を植えては、さらに狭くなり危険は増すことになる。
- ・落ち葉、鳥害などの問題にはどう対応していくのか。植栽によるデメリットについても十分考慮すべき。
- ・本来の優先順位としては、植栽よりも、電線や道路の継ぎはぎをどうにかするべきだと思う。
- ・全体像が明確になって、緑化がその一部だということであれば基本的に賛成する。

(川崎委員)

- ・線的な動線、面的な計画など、総合的にこの通りをどうすればよいのか最終目標となるイメージを持って考えていかないと、愛着や郷土愛というのが根付く整備はできない。
- ・街路樹の樹種については、手賀沼公園からの繋がりや、我孫子の気候、管理など、専門家の意見をもとに選定すべき。

(赤澤委員)

- ・歩道の幅員が狭く、自転車が歩道を走る現状では、植樹柵や中低木を植えると、歩行者空間をさらに制限することになり、事故の増加が懸念される。
- ・広さが十分でない植樹柵に高木を植えると、根上がりを起こして歩道を破壊してしまう。樹木のことを思っても、十分に成育できないスペースに無理に植える計画はいかがなものか。

- ・まちのプロムナード性を持っている国道356号には、「我孫子らしさ」が必要。県に要望するには、単純に緑化ということではなく、そうしたものを打ち出していないと実現性は乏しいと思う。
- ・歩行者の視野角で何が見えるのか、歩行者がそれを見て何を感じるのかを、考えてみてもよいと思う。
- ・成田の事例で、成田参道の歩行者空間を広げるのに、沿道の了解をとって建物をセットバックするというだけで25年かかっている。自分の子供たち、さらにその下の子供たちにまで何を残していくのかを考えないと、住んでいる人もそこに来る人も魅力を感じるまちにはなっていないと思う。

(齋藤委員)

- ・狭い道路でも狭い道路なりの工夫をしている事例が多くあるので、駅から歩いていろいろなところに行くためのアプローチ空間としてどういう機能を持たせたいのか、にぎわいを創出したいなど方向性を決めれば、知恵や提案が集まると思う。
- ・自主管理のことを考えると、商工会や、沿道のビルのオーナーなどを含めた体制を構築することから進めていくべき。

(丹治委員)

- ・観光を学ぶ県外の学生に我孫子を歩いてもらったときに、「とにかく道に迷う」、「非常に殺風景」「観光の目的地まで行くとよいものがある」という感想があった。一方で、住んでいる人からすれば、「安全性」が一番気になるところだと思う。地域の人が周りを見る、歩きやすいことも観光の一部なので、まずはそれを目指してやっていけばいいと思う。
- ・街路樹が景観としての機能だけでなく、連続した街路樹を辿ると目的地に行けるというような機能があるといい。

(阪本会長)

- ・樹木の専門家として現状の幅員を見ると、高木や枝が張る中木は難しいと思う。あまり枝が張らずに花が楽しめるなどの条件の設定と、植栽枠がどれだけ確保できるかで樹種は限定されると思うので、実現の可能性のある案をつくって県に要望してほしい。

委員から出た多数の意見を踏まえて、再検討し、次回の景観審議会でも改めて意見を伺うこととした。

## 5. その他

- ・景観行政に関するアンケート調査について

関東圏内における景観計画策定団体のうち、人口規模が我孫子市と同規模程度の24市に対して行った、景観行政に関する取組調査の結果として、屋外広告物の違反指導実績や、景観啓発事業の実施実績を報告した。

- ・我孫子の景観を育てる会の活動について

景観づくり市民団体に認定されている我孫子の景観を育てる会の活動について、会長の吉澤氏からご説明いただいた。

以上